

リタイアメント・プランニングのあるべき姿 —長寿リスク計量化の重要性と金融機関のビジネスチャンス—

Appropriate situation of retirement planning
-Importance of measuring longevity risk and business opportunity for banks-

堀彰男*, 川口有一郎**
Akio HORI*, Yuichirou KAWAGUCHI**

* 株式会社三菱総合研究所金融イノベーション事業本部

** 早稲田大学大学院ファイナンス研究科

本論文では、高齢者の家計を巡る状況が厳しさを増す中で重要性が高まっているリタイアメント・プランニングについて、そのあるべき姿と金融機関にとってのビジネスチャンスについて考察する。現状のリタイアメント・プランニングの課題を抽出し、確率的なアプローチを導入することでそれを克服する方法を具体的な事例に基づき提示する。また、残された問題としての一個人の不確実性について、長寿リスク計量化をはじめとした金融技術による新たな金融商品の開発の重要性について述べる。最後に、リタイアメント・プランニングのあるべき姿を実現する上で金融機関が果たすべき役割とビジネスチャンスについて考察する。

Keywords: リタイアメント・プランニング (Retirement Planning), 長寿リスク (Longevity Risk), 生命表 (Life table), 生存率 (Survival Rate), 終身年金保険 (Lifetime Annuity), リバースモーゲージ (Reverse Mortgage)

1. 大相続時代におけるリタイアメント・プランニング

団塊の世代が後期高齢者となる 2020 年に向けて、我が国の相続マーケットは拡大を続け、すでに大相続時代に突入したと言われている。

拡大を続ける相続マーケットにおいては、既に様々なプレイヤーが顧客セグメントごとに様々なサービスを提供しているが、対象者数という意味で最も数の多いマス層に対しては、各業界とも手付かずもしくはその中でも相対的に裕福であったり金融リテラシーの高い一部の層への受動的なサービスの提供にとどまっているのが現状である (図 1)。

本論文では、課税の有無にかかわらず相続は誰にでも発生する人生のイベントであると考え、マス層に対するリタイアメント・プランニングのあるべき姿と金融機関

が果たすべき役割やビジネスチャンスについて考察する。

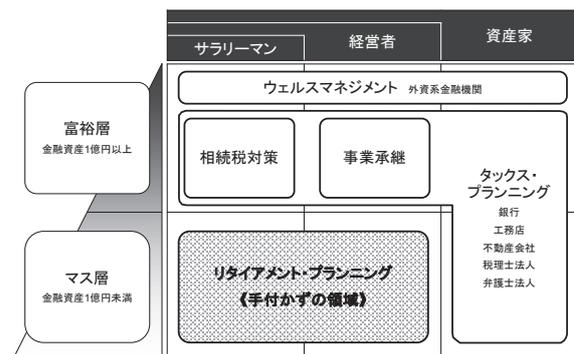


図 1: 相続マーケットのプレイヤー

2. 高齢者マス層の家計の実態とリタイアメント・プランニングの重要性

高齢者無職世帯の家計収支を見ると、年金を中心とした実収入に対して実支出が上回っており、恒常的に赤字であることがわかる (図 2)。家計収支の赤字は、現役時代